

### 第三回中間報告

(2017 年 4 月 1 日～2017 年 7 月 10 日)

国際ロータリー第 2710 地区

2016-2017 年度 グローバル補助金奨学生

石川祐実

1. 報告書提出日：2017 年 7 月 13 日 第三回報告

2. 基本情報

- ・ 氏名：石川祐実
- ・ 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：徳山ロータリークラブ、守政和浩様
- ・ 受け入れホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Redbridge, Mr. Tony Betts
- ・ 教育機関：キングスカレッジ・ロンドン
- ・ 専攻分野：国際保健（医療従事者教育）

ロンドンにも夏がやってきました。日差しは強いですがからっとして過ごしやすく、街のあちこちに花と緑があふれています。公園は日光浴やピクニックを楽しむ人々で賑わっています。大学院のコースは修士論文の執筆を残すのみとなりました。今回の第三回報告では、修士論文の執筆を中心にロンドンでの大学院生活と、同期間に参加したロータリーの活動を中心にお伝えします。(写真はクラスメイトとピクニックの様子)



3. 学業面での成果

#### 修士論文について

私の所属するコースの修士論文は **capstone project** といわれる実務研修のなかで書き上げることになっています。学生はキングスカレッジまたはパートナー機関の研究チームに所属し、研究員の指導を受けながら研究を進めます。私は昨年 10 月から **Colombo Twin and Singleton study** というスリランカ、コロンボのデータを分析するチームに配属になり、これまで研究を進めてきました。私の修士論文のテーマは「スリランカの都市部のサンプルにおいて、鬱の症状があることが社会経済地位に影響を与えるか」です。社会経済地位として特に負債のあるなし及び経済的負担を扱っており、社会的機能を媒介変数とした媒介分析も同時に行っています。既にデータの分析は終

了していて、現在はそれらをまとめる作業に入っています。私にとって初めて取り組む本格的な論文であり、また英語で書き上げなければならないということに高い壁を感じていますが、納得のいく論文を提出できるよう、8月下旬の提出まで集中して取り組みたいです。

また、6月のミーティングでは、卒業後もこの研究を継続することが決まりました。コースの先生方とスーパーバイザーから、「分析はとてもよく出来ているし、良い研究になると思う。ここで終わらせるのはもったいないので研究チームに残ってもう少し続けてはどうか」と提案していただきました。修士論文としてはここまでの分析結果をまとめて提出し、その後データを増やして研究を拡張させていく予定です。なお、卒業後はリモートでの共同研究となるので、予定通り日本の修士課程に復学し、就職活動も行います。

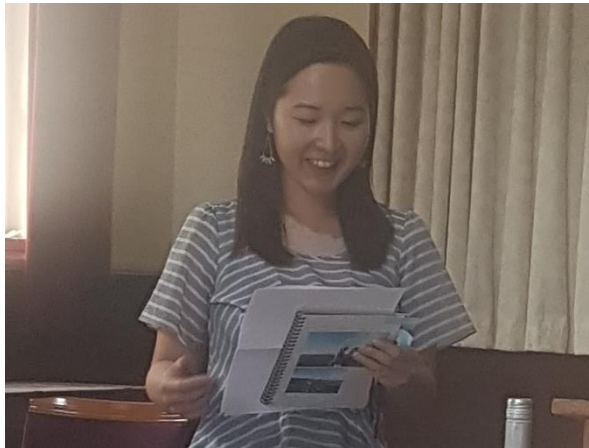
#### ミャンマーのイーラーニングプロジェクト

第二回報告でもご報告しましたが、授業の一環でミャンマーのイーラーニングプロジェクトに応募する教材の開発を行いました。このプロジェクトは、オスロ大学を中心とするプロジェクトチームで、ミャンマーに医学部生が利用できるイーラーニングの図書館を作ろうとするものです。私のグループは、高齢化社会における公衆衛生の課題をテーマに15分間の講義ビデオを作成しました。3月に一通りビデオを完成させた後、友人たちにビデオを見てもらいそのフィードバックをグループで検討、ビデオの修正を繰り返し、6月上旬に完成品をオスロ大学に送りました。7月に入ってまもなくオスロ大学から返信があり、現在のところ順調に選考を進んでいるようでした。8月にミャンマーで最終審査があり、それに合格すると図書館に置いてもらえるということです。8月まで結果が分かりませんが、オスロ大学からはとてもポジティブなコメントをいただいたので、楽しみに結果を待とうと思います。私たちのビデオがミャンマーの医療従事者教育に少しでも役立てばいいなと思っています。

#### 4. 受入地区でのロータリーとの関わり

7月10日に **Radlett Rotary Club** の招待を受けて、定例会にてプレゼンテーションを行いました。日本の様子を紹介したのち、国際保健に関心を持ったきっかけやこれまでの取り組み、キングスカレッジ・ロンドンで取り組んだ教育実習とミャンマーのイーラーニングプロジェクトについて、修士論文について、そして今後の抱負をお話しました。フロアからは、「途上国でメンタルヘルスの治療を普及させていくにはどのような問題があり、現在どのような解決策が検討されているのか」という質問をいただきました。この質問にたいして「一番の問題は人材を含む資源の不足だと思います。解決策としては主にタスクシフティングとプライマリケアサービスへの統合が注目されています。タスクシフティングで専門家以外ができる治療を増やし、治療の供

給量を増やすこと、プライマリケアがメンタルヘルスの治療を扱うことで新たにメンタルヘルス部門を開設することに比べコストを削減でき、また早期発見、早期治療が可能になると考えられています。」と回答しました。プレゼンテーション後は徳山ロータリークラブと Radlett Rotary Club のバナーの交換を行いました。(写真はプレゼンテーションの様子と David さんとのバナー交換の様子)



#### 5. 直面した課題 / 今後の課題

私の所属するコースでは、スーパーバイザーは採点をするかどうか関わらず、修士論文を箇条書き以上の形態で見ることができないという規定があります。この規定は同じ大学院の他のコースに比べてもとても厳しい規定です。私の場合も分析終了以降はほとんど修士論文に関する指導を受けることができません。論文の細かな構成、分析結果の見せ方や結論への繋げ方などの指導を受けられないことにとっても苦勞しています。今後は、大学院が提供している修士論執筆用のセミナーやプルーフリーディングサービスなどを有効活用し、できる限り良い修士論文に仕上げたいです。